
海の観光拠点整備基本計画作成に係る第3回検討委員会

会議要旨

令和5年1月23日(月曜日) 午後2時から午後4時10分

会議次第

- 1 開 会
 - 2 あいさつ
 - 3 業者紹介
 - 4 議 事
(1) 業者選定に係るプロポーザル審査概要について
(2) 今後の計画作成の進め方等について
 - 5 そ の 他
 - 6 閉 会
-

午後2時開会

次第1 開会

次第2 あいさつ 委員長 多田 憲一郎

昨年の第2回検討委員会以降、皆さんの思いを形にできる業者の選定を行い、今日は受託業者もお見えになっている。今年はいよいよ海の観光拠点が形としてあらわれて、新しい大山の魅力が作られていくスタートの年になる。今日がその思いを形にする最初の会議であるが、具体的なご提案にご意見をいただいで、実りある会議になるようご協力をお願いします。

次第3 業者紹介

海の観光拠点整備基本計画作成業務委託

受託業者 株式会社あおい総合設計

協力業者 株式会社ベリー

次第4 議事(1) 業者選定に係るプロポーザル審査概要について

事務局 参考資料1は、前回と同様に、今回の議事が何かを示している。前回では、第3回で整理・調査した計画の素案を提示する予定だったが、受託業者との顔合わせと企画提案の内容を説明し、受託業者の思いや各委員のお考えをすり合わせて、次回以降に計画を形にするよう内容を変更した。今回の進捗によって、説明会は、第4回の後に開催する予定である。資料1は、業者選定に係るプロポーザル審査の概要である。企画提案には、第2回で検討した海の観光拠点の整備方針等を踏まえた提案を求めた。提案内容は、意見交換をしながら具体的な形にしていきたい。提案内容は、資料2以降で説明する。

受託業者 資料2と資料2別紙にて提案内容を説明する。「大山や日本海の豊かな自然資源を生かして、わくわくできる楽しい場をつくること」を提案した。成功事例を調査し、市場や将来展望、事業性を確認する。拠点施設を核として、将来的には宿場町御来屋の活気が復活する方向性を目指す。拠点コンセプトは、「観光の町が凝縮された宝石箱、海のおもてなし拠点御来屋」であり、大山の魅力を全て詰め込んで情報を発信していく拠点施設を目指す。導入施設はサイクルステーション、セレクトショップ、アウトドアライフインフォメーション、少人数リゾートホテル、地元食材の小レストランで、これらは観光拠点となるために必要な施設だと考えている。拠点整備の方向性は、大山の魅力を凝縮したわくわくどきどきの演出を、魅力的な空間と統一感のあるデザインで作り上げることである。アイデアを出し合い、対話を重ね、思いや願いを確認しながら本当に望まれる海のおもてなし拠点を目指す。提案の中ではワークショップとしていたが、様々な手法で町民の思いを確認し、参加していただくことで海のおもてなし拠点のファンを増やす。規模及び配置計画は、各施設が海を眺めるテラスデッキに寄り添うように面し、開放的な外部空間と融合する内部空間が来客の回遊を促し、それぞれが居場所を見つけて滞在することで大山町の魅力に浸る。募集書類に示された海の観光拠点の整備方針等について、どのように提案に反映したか説明する。プロポーザルでの企画提案をもとにして実現可能性の高い計画を作成する必要がある。それには、拠点作りというハード部分以外のソフト部分の構築が必要と考えている。観光拠点として周辺の取り組みとどのように結びつけるか検討し、バリアフリーを含めてSDGsの視点で持続する取り組み、拠点を活用しながら活性化する取り組みが必要である。事業地の利用は、話し合いながらベストな方法を検討する必要がある。網の修理作業場について、修理方法や網の作業スペースが観光につながる見せ方ができないかなど話し合いを通じて提案したい。

委員長 私自身がプロポーザル審査員として評価した点は、御来屋漁港だけではなく長い海岸線を持つ大山町で面的な広がりを持たせるという検討委員会の構想に近かった点、進め方として大山町民の思いや考えをいろいろ引き出したいという考えを熱く語られていた点、大山という山と美しい海岸を高く評価されて町の人々の宝にしていくお手伝いしたいと熱く語られた点である。業者選定に係るプロポーザルの審査概要と提案内容の報告について、質疑があるか。

(質疑なし)

次第4 議事(2)今後の計画作成の進め方等について

事務局 今後は、今回を含めて4回の検討委員会を経て計画作成に到達したい。まず今回の第3回は、受託業者の提案やどのような思いを持って具体化するのか、スケジュールはどうかなど詳しく説明して、各委員のご意見をいただきながら方向性を確認したい。第4回で計画の素案を提示し、第5回で修正を行ってパブリックコメントを実施する。最終となる第6回では、パブリックコメントの意見を踏まえながら計画案を最終確認し、その後の設計などのスケジュールを共有させていただく。以降の具体的な説明は、受託業者にお願いする。

受託業者 今後の進め方について、スケジュールを中心に説明させていただく。今年度末までの事業期間と聞いていたが、いろいろな意見の確認や対話に時間がかかると考えている。工程には、基本構想部

分と基本計画部分の二つをまとめるという流れがある。構想では、整備方針の整理・検討と事業規模の検討があるが、関係団体へのヒアリング、子どもたちや町民の意見を聞く方法を検討しており、一案では地元ケーブルテレビの活用など、事務局と相談して進めたい。整備方針が決まれば、次は事業規模を検討する段階で先行成功事例の調査をする。これらが固まった段階で基本計画プランを作成し、概算事業費を出し、整備スケジュールを検討する。進め方は、まず時間をかけて町のことを知り、各方にどのような考えがあるか確認することが必要である。

委員長 具体的な計画作成の進め方について、質疑があるか。

委員 ヒアリングでは、住民の意見、実際に御来屋漁港で働いている人の意見を聞きながら配置や設計、計画内容を決めていくという理解でよいか。

受託業者 まずは検討委員の思いを聞きたい。各団体の代表、アンケート形式、回覧形式など手法を検討したい。聞きたいことは、自分の好きな場所、夕日がきれい、私たちが知らない名産物のようなもので、眠っているものを生かしたセレクトショップを導入する可能性の検討などのためにヒアリングしたい。

委員 御来屋漁港での拠点整備は決まっているので、今回示されている配置図に地元の人の意見を反映することが可能か。夕日のことなどは第2回までの検討委員会で十分に検討した。

受託業者 大山の観光拠点になることを考えており、まだ眠っている観光資源があるのではないかという思いで、その生かせる部分を知りたいと考えている。あるいは、アクティビティも新たに作らなければならないという思いがあり、どのような可能性があるのか探りながら拡大させていく提案ができると思っている。

委員長 進め方と具体的に何をヒアリングしたいかという話があったがどうか。

委員 インタビュー形式や設問などで、観光で使う人の視点とそこで働く人の視点など漁港で共存するためにはどのようにするのかという二つの視点でのヒアリングがあると良い。

委員長 漁港という特性から、そこで働く人へのヒアリングを丁寧にしてほしいということだった。

受託業者 外から来る観光もあれば町民が利用することもある。また働く場として考える必要もある。収益を上げることも考えなければならない。整理して意見を聞きたい。

委員長 こういうことを考えてほしいという観点でも結構であるがいかかがか。

委員 観光拠点ではあるが、地域の生活もあるので、地域の要望や声を吸い上げて欲しい。今は日常的なものが観光資源になる時代で、御来屋という歴史ある街の家並みや歴史的な資源・施設といったものを、いかにこの拠点から広げて地域の皆さんに関わっていただくかという視点が必要である。地域の皆さんの生活と歴史・文化といったものが生かされていくような拠点になれば、地域の中で非常に価値が高まり、喜んでいただけるようになるのではないか。そういう視点でお願いしたい。

受託業者 御来屋駅の朝市で野菜が売られていると思うが、魚は売られていないと思う。漁港が近くにあることをうまく生かしながら、皆さんの協力で盛り上げられるよう相談したい。新しい拠点が観光客だけでなく、地域の方にも来ていただけるよう考えたい。

委員 そういう視点ではなく、地元に住んでいる方が気づいていないが、考え方によっては観光資源になり

得るものが、御来屋の活力を生み出す可能性を秘めているのではないかということ。

受託業者 ハードルが高いと思うが、宿場町であった御来屋を盛り上げていきたいと考えている。名和神社からつながる参道も含めて、最終的には水木しげるロードのようなものになるというのが目的で、そのように考えながら提案した。可能性を探りながら拡大の提案をするという思いと考え方は同じだと思っている。

午後3時 休憩

午後3時6分 再開

委員長 今日の会議の前半は、業者選定の経緯の説明と今後の進め方についてであった。今の論点は、進め方とスケジュール、町民の意見を聞くというヒアリングのことであった。また御来屋漁港をどのようにするのか具体的な中身も出ていた。これらの観点からご意見ご質問をお願いしたい。

委員 配置図のテラス席が地面から上げられているが、漁港の堤防が2メートルあるので、この高さでは隠岐の島は見えない。お魚センター2階の恵比須の魅力は、海を見ながら食事ができること。配置図にレストランとあるのは、そこに恵比須を移転する計画か。

受託業者 お魚センターの機能を移転することができる条件なので移転する想定である。観光拠点となるためには海が見えることが必至と考えているので、眺望ができる高さまで上げることが大事である。

委員 町内にはカキ小屋をしたいという事業者がおられると聞く。例えばサザエのつぼ焼きやイカ焼き、バーベキューができると皆さんが喜ばれると思うが、レストランの計画に入っているか。

受託業者 レストラン前のテラス席で火を使ったものができるという想定がある。

委員 具体的にはわからないが、海岸道路を出たところの古民家でショップか何かを計画されているのでうまく連携してほしい

受託業者 この拠点の点だけではなく、線になり面になると広がりが出るので、そのような計画があれば確認しながら検討を進めたい。

委員長 地域の言葉を受託業者に知っていただくことが非常に大事なので、具体的なご質問やご提案などがあればお願いしたい。

委員 支え合いのまち御来屋が拠点に使われている漁村センターが近くにあるが、かなり老朽化しているので一体的に開発を考えることができないか。配置図にあるサイクルポートを移して事業地を広く使う検討が可能になる。また、支え合いのまち御来屋に指定管理をしていただくといいのではないかと思う。加えて、以前は大型バスが入るという話があったが、配置図にバスが入る余地がないので、そのような観光は諦めたか。

受託業者 今の事業地では大型バスが乗り付ける規模ではないと想定した。ご意見のように事業地が広がるのであれば検討が必要である。プロポーザルの提案にはない部分は、ヒアリングでどんどん引き出していきたいと思う。

委員 配置図ではコグステーションがメインだが、国道9号などはサイクル向きではない道路だと考えている。今年度、大山町のレンタサイクル事業で実証実験をしたところ、想定より少ない300人弱の利用人数だったので、それをメインにしても集客が難しい。また、この近辺で、1組限定で1棟貸しをするリゾート風ホテルがあるが、とても苦戦されていると聞くので、どのような魅力や観点から宿泊施設を設定されたのか聞きたい。加えて、大山町には屋内型の観光施設が必要だと考えている。例えば賀露港の「かっこ館」のように海や魚と触れ合えて、雨の日に子ども連れで1時間ほど滞在できる場所があれば、足を運ぶきっかけになり、雨の時にも満足度が高いものは観光でも充実すると思うので取り入れてもらいたい。

受託業者 サイクルは鳥取県あるいは大山町がかなり推進されている。鳥取うみなみロードが鳥取県内につながっており、大山はダウンヒルサイクリングが有名なところで、大山町にはその到達地点として休憩ができる施設がないと考えて提案した。宿泊施設の設定については、限定1組あるいは2組のリゾートで、漁火が見える、海が見える、波の音が聞こえる、なおかつ星空もきれいという点が魅力になると考えている。拠点施設というならば、小さくとも宿泊施設が必要だと考えている。運営は検討しなければならない大きな課題である。

委員 地面から高さを上げることで、スロープを長めに取ることが難しくユニバーサルデザインという点で角度が急である。車椅子の方などが使いやすいスロープが設置されるのか。また、子どもが落下する可能性があることに対して、どのような対策をとられるのか。

受託業者 スロープに関しては、自転車専用のスロープと車椅子が上れる緩勾配のスロープの両方を設ける想定をしている。平行に階段があるので、車椅子の方が遠回りすることがないように設定している。落下の問題には、手すりなどの落ちない工夫をする必要があると認識している。

委員長 ほかにいかがか。こういう機会はあまりないのでぜひお願いしたい。

委員 今回の配置図で漁協施設の前にレストランが提案されており、整備方針等にある黄色い枠が定置網の方の理解を得て利用可能な状況ということだが、定置網で働いている方との話し合いをする予定はあるか。

受託業者 絶対必要だと思う。

委員 整備方針等では御来屋で取り組みがあるアートなどの特徴を生かすということが示されているが、その点はどのように考えているか。

受託業者 御来屋のアートは特に考えていない。そのまま残して、どのように広げていくかは相談だと思う。

委員 漁港には2018年に海外のアーティストが来て、御来屋のまちづくり、町の住民と一緒に作って非常に重要な作品がある。整備方針等の緑枠で撤去の検討が可能となっている倉庫に描いてあるアートがメインで、子どもや住民が自分たちの手形をベースにしてつくった絵である。御来屋漁村センターと漁港のいろいろなどところにある倉庫にも、フロリダのアーティストが大山の歴史や名和神社などをモチーフにして描いたアートがある。その倉庫は漁業者が使っているが、漁業者は撤去されるとは聞いていないと言っている。

受託業者 赤枠の外は今回の提案には入れてない。赤枠の範囲内にある緑枠の倉庫のアートが重要なものであれば検討が必要だと思うが、撤去の検討が可能と示されていたので撤去を検討した。このようなことは、十分に話し合いをして検討しなければならないと思っている。黄色い枠の部分に関しては、拠点施設というからには、黄色い枠の部分も利用する必要があるのではないかとということで提案した。ただし、要望などを踏まえて皆さんが納得する中で詰めていかなければならない。

委員 実際に働いている人への説明をしてほしいという声を聞いているのでぜひお願いしたい。

委員長 大事だから残してほしいという話は、この場で具体的にお話しいただくと助かる。

委員 環境に配慮する提案があったが具体的には何か。船や人の出入がない場所に藻場をつくるなどの大きな意味での環境保全につながるようなプロジェクトを組み込むか。海、山、川、オオサンショウウオのいるような特別な環境の場所なので、世界にこの環境がとてもすてきな場所であることをアピールするよう考えて重視してほしい。

受託業者 建物としては集落に近いような姿で魅力的なものにしたい。カーボンのことを考えると木造が優れているかもしれないがこれからの検討である。敷地外に必要な項目は、今回の事業なのか別の事業なのかをこの場で出していただければ、整備方針等の中で持続可能な施設ということが謳われているので、組み込むことが可能だと考えている。

委員 商工会主催の花火大会は、お魚センターの真横が、打ち上げ現場から 200メートルのラインである。この内側では、建物が燃えないこと、打ち上げのときには建物の中に人がいないこと、消防団が警戒をしてバリエードすることが、打ち上げの条件になっているので考慮してほしい。昔はお魚センターの周りは海であって、貝やワカメをとったり魚をついたりして楽しかった記憶がある。子どもたちが自由に獲ってもいい場所を設けて楽しめればいいと思うが、海のものに獲ることに関しての制約はどうか。

受託業者 いろいろな条件の中で法律に従いながら進めていかないといけない。

事務局 いろいろなご意見がある中で全て叶えることは現実的に困難であるが、今後、ヒアリングで皆さんの意見を吸い上げて、優先順位を決めて実現可能性を検討する作業が控えている。今はお答えできないことがあるかと思うが、いろいろなご意見をお願いしたい。

委員長 ここでの解決は難しいが、情報が重要だと思うので気になることはご発言をお願いしたい。

委員 海の観光拠点は、収益を上げるために作るのか、それとも集客のために作るのかいずれか。今後の計画を立てる上で、いずれか明確になると具体的に検討できると思うがいかがか。

事務局 収益事業として大きく黒字にすることは難しいと考えている。集客をしながら採算割れをしない形で、行政が施設を用意することによって地域にも波及していくイメージで整備していきたい。

委員 集客の面として住民も使われることを想定して検討されたと思うが、住民がどこを使えばいいと考えているか。

受託業者 住民は、広場あるいはアウトドアインフォメーションを運営者または利用者として使うことを想定し

た。ほかに観光案内ができないかなども検討したい。また外部空間として、景色の良さ、自転車での利用、住民もどンドン外に出て海でも山でも楽しむことが、拠点からできあがってくるという思いがある。

委員 山陰は曇り・雨が多いので屋根がある暖かい空間があるといい。配置図にセレクトショップとされている場所が広ければ、景色を見ながらアウトドアフィットネスができると思った。道の駅などにセレクトショップ機能は集約したほうがいい。地面から高くするならば、周辺にお住いの高齢者でも集まりやすいよう緩やかで長いスロープにするなど考えてほしい。

委員 お魚センターのレストラン機能が今回の事業地に移転されるということだが、直売所の利用者や観光客が立ち寄る機能はお魚センターに残るか。

事務局 現在の2階の飲食と1階の販売は、新しい施設に移していいのではないかと考えている。残ったお魚センターは、魚の下処理室に使えたり、2階は空きスペースになるので多目的な部屋としても活用できたりすると想定をしていた。

委員 お魚センターに住民と観光客の両方が使う機能が残るのであれば、今回の事業と一体的に開発ができないかと思い質問した。漁協施設はバックヤードとして必要だと思うが、お魚センターがもし一体的に開発できるようであれば、前面の道路からも入りやすかったり、建物の顔となるようなところができたりすると思った。

委員 地面から高くしてどの施設からも海が見えるという提案だったが、高くした分の下フロアを使うことができないか。年間通して使えるならば、フランス・パリにある倉庫のような建物にアートを上映するスペースがとても人気のスポットになっているように、どこにもない何かがあれば御来屋が魅力のある場所になり、発信の場所にもなり、集客が見込めると思った。ホテルでいうと海に浮かぶ部屋が検討できないかと期待を膨らませている。

受託業者 堤防が2m程度なので地盤面は1m程度しか上げられないと思う。下のフロアは使えたとしても天井の低いものと想定している。

委員長 面白いアイデアをどんどん提案して参考にさせていただきたい。

委員 地元の生活や営みを感じるというローカルツーリズムを考える中で、サザエが獲れたり魚が獲れたりすることを体験しながら、調理もできる施設があれば面白いと思っている。お魚センターが利用できるようであればそれを活用してもいい。

受託業者 事業地内ですののかサテライト的にある別の場所を案内する施設になるのかは考えなければならぬ。情報発信拠点というイメージがあるので含めて考える必要がある。

委員 ここにできる建物は、町の持ち物か個人の建物か。支え合いのまち御来屋が建物の東側で壁画アートを作っている。夏場には周りを使っているいろいろやりたいと思っているので、町の施設であれば使いやすい。

事務局 基本的には、町の施設として整備をして、町が運営していくということを検討している。

委員 会議の中で受託業者が非常に困られている場面があったが、町が目指すところを絞っていかねば意見ばかりでまとまらなないと危惧する。受託業者は調整がなされている前提で提案をしていると思う。これだけのスペースしかないので、取捨選択をしていかねば同じような意見ばかりで、委員会でも作ってやらなければ1年でまとまらない。

事務局 なるべくいろいろなお考えを伺って、極力反映させたいというつもりでご意見をいただいている。どこかの段階で予算規模と技術的な数値が一致するところで定着させないといけない。海の観光拠点だけを作って終わりではなく、次々に考えていかねばならないところにも反映させていきたいので、広くご意見をいただきたい。どこかで収束させないといけないというイメージをお持ちいただきながらご意見を交わしていただきたい。

委員長 この検討委員会は、いろいろな立場の方が集まられて、どのような方向性で観光拠点をつくればいいのかということを検討すべきと思っている。そのような意味では、初めに結論ありきではなく、皆様のご意見をいただきながら作り上げていくものだと思っている。いずれ集約しなければならない。

委員 各委員は、団体の意見を代弁している部分があるが、代弁しているわけではない部分もある。各々の思いを十分に受け止めて、地域の皆さんの声を吸い上げて検討会にフィードバックしていただいて、委員と地域の皆さんがお互いに理解していけるように、いろいろな角度から声を聞いていただきたい。

委員 スケジュールの先行事例調査は、現地に行って調査をするのか情報を収集するだけなのか。現地に行く場合は委員が行くのか。

受託業者 事務局と協議したい。私たちは調査を進める中で必要であれば現地調査の想定があるが、内容によっては委員に同行していただいて確認するというのも必要かもしれない。

委員長 今日の会議は、業者が選定されて具体的に基本計画の作成に向かって動き出すところである。皆さんの意見をできる限り反映させていくには、時間がかかり、また時間をかけなければならない。そういう意味で、丁寧な議論をしながら、大山町で誇るべき海の観光拠点ができるように、年度を越えたスケジュールで進めていくという上で、皆さんからのご意見を承ったと思うがよろしいか。

(年度を越えて検討する方向性を承認)

次第5 その他

事務局から諸連絡。

次第6 閉会

事務局 今回は、企画提案のあった具体的な内容をお示しできたことで多くのご意見をいただけた。今後、関係者ヒアリングの内容を踏まえながら進めたい。

午後4時10分閉会